

# A9

## 茨城県における女性の原子力エネルギーに対する認識の変化 ～WIN-Jの5年間のハート to ハートの交流会を通して～ 1) テーブルトーク内容の解析

Change on Women's Perception of Nuclear Energy in Ibaraki Prefecture  
～ Through 5 Years' Heart to Heart Dialogues as WIN-Japan Activities ～

WIN-Japan 尾形 祐子 橘内 久美 小川 順子  
Yuko OGATA Kumi KITSUINAI Junko OGAWA  
(日本原子力発電(株)) ((独)日本原子力研究開発機構) (日本原子力発電(株))

WIN - Japan 茨城は茨城県の女性を対象にハート to ハートの交流会を5年間実施してきた。この間の参加者の原子力に対する認識の変化についてとりまとめを行った。その中から、テーブルトーク内容の解析結果について発表する。

**キーワード:** コミュニケーション, 地域住民, 地球環境問題, 原子力エネルギー

### 1. はじめに

WIN-Japan (以下、WIN-J と略す。)では、ハート to ハートの人間的交流を通じた継続的な情報交換の場である女性交流会を実施してきた。本女性交流会は、原子力や放射線に無関心な層に対して「放射線や原子力について考える『最初の一步』」と位置づけ「興味を持つきっかけ」を作ること、また複数回参加している方には、将来の地域のオピニオンリーダーとなつていただく事を目的として実施してきた。

WIN-J では、原子力の発祥の地である東海村を第一回目の女性交流会開催の場とすることとした。これをきっかけとして、2001年11月から計8回、茨城県内の女性の方々を対象に女性交流会を実施してきた。まずWIN-Jが2回目までの女性交流会を開催し、3回目以降は茨城地区のWIN-Jメンバーが企画立案および運営を行ってきた。WIN-J 茨城の特徴は「原子力発電」、「核燃料サイクル」、「燃料製造」などの複数企業から様々な業務に従事するメンバーで成り立っていることである。交流会では、この利点を活かせる活動を行ってきた。

### 2. 実施内容

WIN-J 茨城では、ハート to ハートの人間的交流を通じた継続的な情報交換であることが必要であること、またフォーラム形式では参加者が発言しにくい傾向があること等の理由により、「女性による女性のためのテーブルトーク」を主体とした交流会を開催した。この開催形式により、少人数でテーブルを囲む「井戸端会議」のような雰囲気をつくり、参加者から本音の意見を聞くことができるようになった。また、発言だけでなく質問もしやすくなり、さらに本音で会話することにより、全員参加の意識が持て、同じ体験をした仲間としての交流をはぐくむことができる。さらに、原子力や放射線に関する表面的な理解に留まらず、WIN-J 茨城メンバーを通して、原子力を仕事とする“人”そのものを理解してもらうことも必要であると考え、テーブルトークを中心として交流を深めるとともに、メンバーが従事する職場の見学との2部形式の交流会を行ってきた。

WIN - J 茨城と参加者が心を通わせながら話しあうテーマとして、放射線の基礎知識の習得、エネルギーと環境問題、放射線を利用した基礎研究、JCO事故の体験と想い、原子力防災、他県女性との交流、を掲げて8回の企画を運営してきた。第1～5回のテーブルトークにおける意見では、「JCO事故」に関する感想や意見等、事故後5年たっても風化しない「思い」があることがわかった。このため、第6回交流会ではJCO事故を取り上げ、参加者の感じている疑問・不安を払拭し、原子力との共生について理解を深めていただくことを目的に開催した。



写真 テーブルトークの様子

### 3. まとめ

全8回の「ハート to ハートの交流会」は、少人数のグループに分かれた女性同士の忌憚のない意見交換だったため、参加者がリラックスした雰囲気の中で本音の交流ができた。また、原子力や放射線について学ぶ「きっかけ」の場を提供することにより、地域のオピニオンリーダーとして正確な知識を周囲の方々に伝えていただく、という育成への一助となつていたと考えられる。